

第3回 蕨市庁舎整備検討審議会 会議概要

■日 時 平成29年8月2日（水） 午前9：30～11：15

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹（会長）、齊藤正人（副会長）、池上智康、山脇紀子、高橋悦朗、秋山滋雄、牛窪啓詞、岡本和子、木下幹央、藤井康榮、市村眞、大貫芳枝、松本和敏

事 務 局：川崎文也（理事）、佐藤慎也（総務部長）、高橋稔明（都市整備部長）、根津賢治（総務部次長兼政策企画室長）、飛澤正人（都市整備部次長兼建築課長）、丸山友之（まちづくり推進室長）、田熊純也（政策企画室室長補佐）、伊東安治（政策企画室公共施設マネジメント推進担当係長待遇）、森本悠理（政策企画室公共施設マネジメント推進担当主事）、長南政宏、山本健司、勝山聡美（株式会社建設技術研究所）

■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 前回の議事概要について（確認）
4. 議題
 - （1）第2回会議における質問・確認事項に対する説明
 - ①現庁舎の規模について
 - ②県内他市の庁舎整備事例について
 - ③首都圏における庁舎整備事例について
 - （2）蕨市庁舎の整備の基本的な在り方について
 - ①市庁舎の耐震化整備の方向性について
 - ②建替えを想定した耐震化整備の方向性について
 - ③市庁舎に求められる機能について（事例紹介）
 - （3）その他
5. 閉会

■内 容

【開会】

事務局から、開会のあいさつを行った。

【会長あいさつ】

会長からあいさつを行った。

【前回の議事概要】

事務局：前回の議事概要について修正点がないか確認したい。修正がなければ、これを持って、議事概要を確定し、市役所の1階市民活動推進室閲覧コーナーと市ホームページで公開する。

【議題】

(1) 第2回会議における質問・確認事項に対する説明

①現庁舎の規模について

②県内他市の庁舎整備事例について

③首都圏における庁舎整備事例について

事務局から、会議の資料について説明した。

会長：質疑はあるか。

委員：庁舎の面積について、蕨市と人口が近いふじみ野市、志木市などの事例は検討したか。

事務局：ホームページで公開している基本構想・基本計画で数字が明記されている事例のみを取り扱っている。

委員：ふじみ野市、志木市あたりも参考になると思うので可能な範囲で示してほしい。

委員：職員1人当たりの面積について、他自治体と比べて蕨市は低くなっている。働く職員のことを考えると面積はある程度あったほうがよいと思うが、庁舎規模は最低限で十分なのか、あるいは平均的にするべきか、考えを教えてほしい。

事務局：財政状況を勘案して、可能な限りコンパクトな庁舎とするため、延床面積を設定している。現状よりは広くなっており、仮に7,000㎡とすると今回示した他自治体の平均程度になる。最終的に建替えとなった場合は改めて検討することとなる。

委員：職員1人当たりの面積に、執務スペースだけでなく市民との共有スペースは含まれているか。

事務局：必要とする機能に対して、国の基準に照らして規模を出しており、廊下などの共有スペースも含んでいる。

(2) 議題2：蕨市庁舎の整備の基本的な在り方について

①市庁舎の耐震化整備の方向性について

会 長：質疑はあるか。今回の会議が折り返しとなる第3回目となり、残り2回の会議で市長からの諮問に対して、答申に向けた論点を整理し、答申書を作成することとなる。スケジュールを踏まえると、次の第4回目の会議が、事務局が対応できる最後の機会になると思うので、提供してほしい資料などがあれば、この会議中に発言いただきたい。

委 員：市庁舎は、市民サービスの拠点であり災害対応の要である。市庁舎整備を検討するにあたり、未来思考のもとで市民人口構成を考察しなければならない。20数年後の将来展望の人口推計を見ると、14才までの年少人口は全体の10～12%になる。生産年齢人口は現在の約65%から7～8%減少する。反対に65才以上の老年人口は、平成22年の20.6%から平成52年では約30%となると予測されている。蕨市も高齢化社会の到来が予測できる。住民基本台帳から、外国人人口比率は県内1位の、総人口の5.33%（3,851人）。将来はさらに増加が見込まれている。防災に関しても30年以内に80%の確率で安政以来の大地震が予想されており、水害を含め防災対策が必要とされている。以上の状況下での財政負担は歳入減、歳出増により財政難は予想される。市庁舎建替えについて、現市庁舎の建替えは今の場所での実行は市からのデータで見れば理解できる。他の案と比較をすれば合理的な選択であろう。教育行政のあり方は衆知を集め検討の必要性を感じる。市民の声の中に、小学校校庭の活用も一案ではあるが、様々な問題が予想され抵抗が多いのも事実である。現在地での新市庁舎が完成した場合の利用については、子供の教育の大切さ、元気な老人のライフスタイル、魅力ある文化と伝統の街、蕨の将来を考えねばならない。教育的文化的観点から、種々なアイデアが出ると考えられる。

文化力の高いコンパクトシティ蕨のユニークな行政は、他市にないあり方が市民から期待されている。河鍋暁斎美術館もその1つのシンボルになると個人的には思っている。たとえば、現庁舎後の新建造物は、河鍋暁斎美術館や屋上庭園・茶室など、有料となるがユニークで他市にない文化と歴史の街蕨にふさわしい一案である。多くの市民のアイデアから、コスト的にも財政的にも効率的効果的な判断が期待されるであろう。あくまでもこれは一例である。当然の事ながら財政的な問題は解決すべき課題ではある。

市庁舎は、まさに現代の蕨城であり、市民の砦である。以上、地域経済分析システム（RESAS）や、コンパクトシティ蕨将来ビジョン、蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略を参考に私見を述べさせてもらった。私案であり、本来であれば候補地について、商工会議所などからも声が上がっている小学校での建替え場所なども含め、現場を見ても検討してもよ

かったのではないかと考えている。

委員：市民アンケートを実施したこともあり、私の周りから、周辺の自治体では駅前の再開発を進めているのに、蕨市は遅れているのではないかと、西口再開発事業と一体的に庁舎を整備する場合はどこに建設するのか。土地を買収するのか、駅につくるのかなど様々な疑問があがっている。説明してほしい。

会長：のちほど事務局より説明する。

委員：B②案、B③案も魅力ある施設整備案と思うが、合意形成の現実性や経済性など踏まえると疑問である。なお、仮設庁舎等に係る費用は資料に含まれているか。また今後の仮庁舎についての考え方を聞きたい。

事務局：第2回審議会の資料のとおり、仮設庁舎を含めて概算費用として3億2千万円を計上している。移転期間は2年から3年程度となり、プロポーザルや一般競争入札など発注方式は今後の検討となる。

委員：B②案の事業費が、市民会館とあわせて整備するので高くなっているのであれば、庁舎のみの費用で比較しないと経済性の評価としてふさわしくないのではないかと。また、B②案、B③案とも、現庁舎の敷地を売却すれば、概算費用や評価が変わってくるのではないかと。

事務局：前回の審議会で報告した概算事業費の内訳について、B①案における新庁舎の建設費は32億円強で、B②案にも同額計上している。市民会館部分は54億円弱で、その他に外構等の整備費を合計している。

委員：B②案の半分以上は市民会館の整備に要する費用であり、正しい比較方法とは思えない。

事務局：施設全体を実現するために市として必要な費用を比較している。B①案以外の2つの建替え案は、確かに現庁舎の土地を売却することや新たな施設を整備できる可能性もあるが、B①案の現在地で建替えた場合には、西口再開発事業で市が取得する床を他の用途に使える可能性も出てくる。こうしたことから、今回の比較では整備費以外の他の収支までは考慮していない。

②建替えを想定した耐震化整備の方向性について

会長：質疑はあるか。

委員：資料にある評価の◎・○・△は見る人の印象を左右する。恐らく、定量的な根拠はないと思うが、B③案の電車・バスは◎、幹線道路は○、早期実現性はB①案は◎、B②案は○、B③案は△の方がふさわしい評価ではないかと。B③案の電車・バスの○の評価の根拠は何か。

事務局：確かに定性的な評価である。B③案については、駅に近いかどうか、バス停があるかどうか、幹線道路は災害時の物流の観点を含めて評価している。

委員：駅前で電車からのアクセスが良く交通利便性が高いにもかかわらず、○にな

るのであれば、他にどこが◎になるのか、理解できない。

委員：駅前に庁舎があっても電車通勤者以外は便利ではないのではないかと。住民票などの証明はコンビニでも取れるため、市役所に行く必要が減っている。駅前に広い土地があれば別であるが、利害が絡み合意形成に課題があるなら、無理に駅前にこだわる必要があるのか。

委員：B②案、B③案が実現した場合は、現市庁舎の土地の活用方法はどのように想定しているのか。産業振興など別の機能を持つのか、資産として売却等を行うのか。それ次第でメリットが出てくる。

事務局：B②案、B③案を実施する場合は、土地の活用については市民の意見を確認しながら進めていくことになる。

委員：今の時点では活用の方向性は決まっていないことで理解した。資金がねん出でき、市役所と切り離れた機能として、歴史・文化資源を発展させるまちづくりに貢献できるのであれば、B③案に賛成できる市民がいる場合も考えられる。それぞれの整備案を進めた時に副次的に得られる機能もあわせて検討してほしい。

副会長：非常に大事な意見である。将来ビジョンにもあるが、どう人を流すのか、蔽らしさの核として市役所がどれくらい重要なのか。市庁舎の場所が移動した場合に蔽らしさの核が活性化されずに市全体の活動が停滞してしまう可能性があるなら、現庁舎の跡地で何をするのか、パッケージとして考えていく必要があるのではないかと。

会長：庁舎の建替えによって生じる影響・効果について、庁内では検討しているか。

事務局：庁舎整備検討委員会の問題意識としては、第一に耐震性が不足した庁舎の耐震化をどう進めるかということであり、昨年度に庁内検討の成果を報告書としてまとめた。移転した場合には現庁舎の土地の売却等も考えられるが、そこまでは踏み込んで検討していない。周囲の住民への影響もあるかと思う。公共施設等総合管理計画としては、総量を抑制する方針であり、庁舎に加えて更に新たな施設を作ることについては委員会では検討していない。

副会長：個人的な意見となるが、平日と休日に旧中山道や商店街を歩いてみると、市役所がここにあるので人の流れができていると感じる。市役所が移動してしまうと、このあたりの人の流れが無くなってしまわないかと感じる。市役所が非常に重要な役割を担っていると考えている。

委員：市役所の影響は大きいので、安易に移転先は決められない。ここにあるから現位置で建替えというのは安易であり、地域やまちの視点から考えるのがよいのではないかと。

委員：自治体も財政について30～40年後の長期で考える必要がある。現在地は利便性や立地のストーリー性もあり、将来的な財政についても考慮すれば、B

①案は最も妥当性がある案ではないか。

会 長：市民会館との建替え案では、駐車場はどこになるか。駅西口再開発はどうか。

事 務 局：市民会館の前の角地に駐車場がある。駅西口再開発では地下駐車場も検討しなければならない。

③市庁舎に求められる機能について（事例紹介）

会 長：質疑はあるか。

委 員：災害時への対応として屋上にヘリポートを設置することは考えられないか。

事 務 局：昨年度までの庁舎整備の検討において説明したとおりであり、屋上のヘリポート等についてはまだ検討していない。

委 員：総務省基準等では、建替えても蕨市が一番小さいことになるが、それでも十分に機能する庁舎が整備できるのでないか。他事例では待合いロビーに多くの椅子があるが、全部埋まっていることはない。総務省基準にこだわる必要はなく、他市から視察に来るようなこれから先の新しい在り方を検討すべきではないか。

委 員：庁舎機能は、床面積に余裕がないので、必要最低限のものを用意すればよいのではないか。立川市のキッズコーナーなどもあるが、蕨市では必要ないのではないか。

委 員：災害時は、学校などもあるため、避難場所としての機能は市役所には求められない。駅前に整備すると、災害時に市民は多くいるが、車は混む、列車も来ないなど最悪の状況になるのではないか。駅前に市役所が移転しても、市外から市役所に通勤する職員は喜ぶかもしれないが、地元の方はあまり喜ばないのではないか。

委 員：市役所の位置はまちづくりの視点も重要ということで、初回では学校での建替えも意見した。この中ではB①案が妥当なのかと考える。まちづくりについて市民も真剣に考える必要があり、情報提供することも必要である。防災本部としての機能も重要であり、財政の面もあるが、多少余裕をもった面積の計画が必要ではないか。

(3) その他

①市民アンケートの状況、今後の審議会の予定

事 務 局：1点目について、第2回会議で報告した市民アンケート調査は、予定どおり7月14日（金）に発送し、回答期限を8月4日（金）として実施している。結果については、次回、第4回審議会で報告する。2点目について、第4回審議会は、8月31日（木）14時30分からの開催を予定していたが、諸事情により開始時間を30分早めて14時としたいが、委員の皆様の都合はい

かがか。

委員一同：異議なし。

事務局：それでは、第4回審議会は8月31日（木）14時からの開催でお願いしたい。なお、10月に開催を予定している第5回審議会の日程については、本日、委員から受け取った日程調整表を確認したところ、全員の都合が合う日がなかったため、再度個別に調整を依頼したい。

委員：市民アンケートの結果は今後公表されるのか。

事務局：市ホームページ等で公開する予定である。

会長：質疑はあるか。特になければ全体の意見をお願いしたい。

委員：歴史的なストーリーを勘案するとともに、早期に事業を開始できるB①案を早急に進めてほしい。庁舎機能については、市民が訪れやすくなるよう、また、障がい者やペースメーカーの使用者などに配慮するため、スペースを広くしてほしい。食堂は無理でも売店は設置してほしい。また、職員がより良い仕事をできるような休憩スペースの検討もしてほしい。

委員：庁舎整備は喫緊の課題であり、B②案、B③案は不確定要素が多く、ライフサイクルコストも考えて検討すべきである。各委員の意見は、現在地での建替えが望ましいという方向であり、次回の会議はその方向で議論を進められればと考えている。

委員：市役所には福祉、子育てなどで困っている方が来ることが多いため、弱者の方が来やすいよう立地条件に配慮してほしい。

委員：B①案がよいと思うが、市民が納得できるストーリーや話し合った内容が答申に盛り込まれると納得感が生まれる。バリアフリーも大事であるが、建替えに決まれば、次のステップで検討されればよい。その際に審議会で出た意見が生かされるとよい。

委員：アンケートの集計結果が審議会の意向と異なった場合、審議会でどのように扱われるのか。

事務局：アンケートの結果は最大限尊重するが、そのまま審議会の結論になるわけではない。市としては双方の意向を尊重して、結論を出していきたい。

委員：アンケートは審議会とは別に市で実施しているものであり、審議会の議論に影響するものではないと考える。

会長：それでは他に意見がないようなので、事務局に進行を返す。

事務局：本日はありがとうございました。以上をもって審議회를終了する。

以上